

# 答 辞

本日、ここに卒業の日を迎えることができ、修了生一同大変嬉しく思っております。ご多忙の中ご臨席を賜りました先生方、ご来賓の皆様にも、修了生を代表して心より御礼申し上げます。

私たちが期待と不安に胸を膨らませながら応用化学科に入学してから六年が経ちました。学部時代を思い返すと、友人たちと一緒に取り組んだ授業や実験などが懐かしく思い出されるとともに、三年次からのコロナ禍での日々も忘れることはできません。専門科目や専門実験を自宅学習で完結させるのは大変なことも多くありましたが、友人と助け合ったり自分の力で調べたりしながら乗り越えられたことで成長できた部分があったと感じます。

学部四年次になるとそれぞれの研究室に配属され、大学職員の皆様のご尽力のおかげもあり、研究活動は制限されることなく行うことができました。それまでの実験科目と違い、自分でデザインしていくことのできる研究の進め方

に悩んだこともありました。私たちが学生の意思を尊重しつつ的確なご助言をしてくださる下嶋先生や後輩思いの素晴らしい先輩方に支えていただき、化学の可能性や面白さを実感しながら前に進み続けることができました。

修士課程では学会発表や論文投稿を通じて、自分の研究を俯瞰で見る力、専門の異なる相手に伝える力を養う貴重な経験を積ませていただきました。そして、聡明で温かい同期と勉強熱心な後輩に恵まれ、実りのある三年間を過ごすことができました。

研究活動の中で得た「どのような結果も失敗ではなく学びである。」ということ。これはこの先の人生にも言えることではないかと思えます。私たちは皆それぞれの道に進みますが、この応用化学科で得た全ての経験を糧にこれからも学びを続け、より一層精進してまいります。

最後になりますが、どんな時も支え、背中を押してくれた家族、入学してから今までお世話になりました全ての皆様に感謝申し上げます。そして、皆様方のご健康と応用化学科のますますのご発展を祈念して、答辞とさせていただきます。

二〇二四年 三月二十六日

早稲田大学 先進理工学研究科 応用化学専攻

修士二年 菊地